

光星8強逃す バスケ男子



近畿インターハイ

田下紗将（東興学園）が4位、福士丈（弘前実）が7位入賞した。男子4000メートルの大久保海里（八戸西）、豊善日向（田名部）、松本絆（大湊）は予選敗退。女子4000メートルの金沢蒼空（八戸西）も予選を突破できなかった。自転車女子ケイリン1回戦4組の原田芽衣（青森商）は敗者復活戦に回った。31日は和歌山県などで開催された8競技が行われた。86-103で敗れ、ベスト8進出を逃した。陸上は男子やり投げで

分
「記録は3位で、青森県関係
優勝候補の一角、開志
国際（新潟）の壁は高か

焦点

V候補に善戦、力及ばず

つた。バスケットボール男子3回戦。勝てば8強入りが決まる大一番で、八学光星は点の取り合いに真つ向から挑んだものの、世代別日本代表を擁

する強豪の総合力に屈した。佐々木彰彦コーチは「1対1やシュート、リバウンドなどのパワフルさに違いを感じた」と力の差を認めた。

前日の2回戦は主力選手を極力温存したが、うち1人が負傷するアクシデントに見舞われた。当初のゲームプランに狂いが生じる中、迎えた3回戦。代役を含めた布陣変更が的中した。第1クォーター（Q）はマッチアップのずれを有効に突き、リードを奪って第2Qへ。警戒していたシューターへの守備も機能し、前半は3点ビハインドの五分で折り返した。しかし、開志国際が攻撃のキーマンを切り替えると、少しずつ流れは相手方に。結果として、こ

の点取り屋1人に50点以上を許し、じりじりと離された。最後まで食い下がった光星。オクボ・サムエル・アラケバイや大屋夢叶の対人プレーなど「個の力は通用する部分があった」と角谷光輝斗主将が言うように、手応えはしつかりつかった。

「競り合いで勝つには身長だけの問題ではなく、コンタクトやチームとしての意識を大事にしていかなければならない」と課題を挙げた佐々木コーチ。この経験を糧に秋冬の大会に向け、再びチームの底上げを図る。

角谷主将は「名前が知られている高校にいい試合をするだけでなく、勝ち切れるようにならないといけない。これで満足することなく、また練習を積み上げていきたい」と前を見据えた。

【バスケットボール男子3回戦・開志国際（八学光星）第1クォーター、八学光星は角谷光輝斗がシュートを放つ】
大阪市のAsueアリーナ大阪



（千葉達也）

（千葉達也）